

2025 年 6 月 8 日

東北整形災害外科学会 参加感想文

大学名	岩手医科大学	学年	4 年
名前 (イニシャル)	Y.M		
参加学会名	第 122 回東北整形災害外科学会		
期日	2025 年 6 月 6 日		
【感想】(400 字程度) 今まで学会というものに参加したことがなく、初めての学会参加だったが発表や質疑応答などを通して学会というものがどういうものなのか知ることができたので良かった。発表に関しては、学会に参加する前は多くの人の前で発表することで頭がいっぱいになっていてとても不安だったが岩手医科大学の先生方に様々なことをご指導していただいたおかげで練習通りに発表することができた。またほかの大学の学生の発表を聞くと、とても堂々としていて聞きやすく、内容も興味深いものであったという間のセッションだった。今回自分たちの発表では病院の電子カルテを使って情報を集めたが、全国の大学生にアンケートを用いたり、自分の骨をイメージ化して強度を計算したり様々な方法がとられていてとても参考になった。 今回の学会発表を通して学会に参加することの大変さや新たな学びを得ることの大切さを学ぶことができた。自分が医師として働くうえで知識のアップデートはとても重要なので学会に積極的に参加するようにしたい。			

2025 年 6 月 13 日

東北整形災害外科学会 参加感想文

大学名	弘前大学	学年	6 年
名前 (イニシャル)	I.S		
参加学会名	東北整形災害外科学会		
期日	2025 年 6 月 6 日～6 月 7 日		
【感想】(400 字程度) この度は、東北整形災害外科学会に参加させていただくという貴重な機会をいただきましたことを感謝申し上げます。参加させていただきました理由については、整形外科にずっと興味があり、先生方がどのような研究や発表をされているのか知りたかったからです。実際に参加させていただいて、先生方のプレゼンテーションの技術の高さや、興味深い研究テーマにたくさんの刺激を受けました。特に、小児の整形外科分野の発表はとてもおもしろいと感じ、自分の将来についても考えることのできた貴重な機会となりました。 また、学生セッションでは、自分と同じ立場の医学生が立派な発表をしている姿を見て感銘を受けました。自分も若いうちから、そのような挑戦を積極的にしていきたいと思えました。何かを研究したい、発表してみたいという思いが高まり、自分にとってとても良い刺激となりました。 最後に、引率していただいた新田先生、倉先生、関係者各位には大変感謝申し上げます。			

2025 年 6 月 12 日

東北整形災害外科学会 参加感想文

大学名	弘前大学	学年	6 年
名前 (イニシャル)	Y.K		
参加学会名	東北整形災害外科学会		
期日	2025 年 6 月 6 日～6 月 7 日		
【感想】(400 字程度) この度は東北整形災害外科学会に参加させていただき、今後の糧となる素晴らしい経験を得ることができました。今回が初めての学会参加でしたが、症例報告やシンポジウム、企業ブースなどどれも興味深いものばかりで二日間があつという間に感じました。特に印象的だったのは各大学代表が発表を行う学生セッションです。ともに学会へ参加した学生の発表と優秀演題賞受賞にも立ち会い、大変刺激を受けました。また、学会期間中に行われた居酒屋討論会にも参加させていただき、新潟の美味しいお酒と海鮮を楽しむとともに、大学の垣根を越えて多くの先生方からお話を聞くことができ、非常に楽しく有意義な時間を過ごすことができました。 最後にこのような貴重な機会を与えてくださった先生方、関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今回学んだことを臨床や研究の場で最大限生かしていけるようこれからも精進していく所存です。			

7 年 6 月 12 日

東北整形災害外科学会 参加感想文

大学名	弘前大学	学年	4 年
名前 (イニシャル)	T.U		
参加学会名	東北整形災害外科学会		
期日	2025 年 6 月 6～7 日		
【感想】(400 字程度) この度、初めて学会に参加し、学生セッションで演題発表を行う貴重な機会をいただきました。自身の発表は優秀演題賞に選ばれ、3 年次から継続してきた研究が外部でも評価されたことは大きな自信につながりました。ご指導いただいた佐々木先生、富田先生をはじめ、多くの方々に心より感謝申し上げます。学会では、他の整形外科の先生方の発表も聴講し、特に関心のある下肢グループの演題から多くを学ぶことができました。症例報告には難しい部分もありましたが、統計解析にはなじみがあり、理解を深めることができました。英語での発表を聴講する中で、学生のうちにもっと英語を勉強しなければならないと痛感しました。さらに、居酒屋討論会では、幹事を務められた新潟大学の先生をはじめ、東北大学など弘前大学以外の先生方とも交流でき、大変有意義な時間となりました。今回の学会参加を通じて得た学びを糧に、今後も精進してまいります。			

2025 年 6 月 11 日

東北整形災害外科学会 参加感想文

大学名	秋田大学	学年	6 年
名前 (イニシャル)	S・M		
参加学会名	第 122 回 東北整形災害外科学会		
期日	2025 年 6 月 6 日～7 日		
【感想】(400 字程度) このたび、東北整形災害外科学会の学生セッションで発表の機会をいただきました。学会に参加するのは初めてで、当日は大勢の前で話すことに緊張しましたが、人前で発表すること自体がとても良い経験になりました。他の学生の発表も非常にレベルが高く、大きな刺激を受けました。また、一般演題では、質疑応答を通じて深い議論が交わされており、整形外科の奥深さと専門性を実感しました。英語でのセッションも聴講し、自分の英語力の不足を痛感すると同時に、今後の学習意欲が高まりました。今回の学会を通じて、整形外科に対する興味がより一層深まり、研修医になって以降も積極的に学会に参加し、学びを深めていきたいという思いが強まりました。最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった先生方、ご指導いただいた指導医の先生、そして運営を支えてくださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。			

2025 年 6 月 9 日

東北整形災害外科学会 参加感想文

大学名	岩手医科大学	学年	4 年
名前 (イニシャル)	H.M		
参加学会名	第 122 回東北整形災害外科学会		
期日	6 月 6 日・7 日		
【感想】(400 字程度) 私は今回第 122 回東北整形災害外科学会の 6 月 7 日に開催された学生セッションに参加した。発表は発表人数の関係上、別の方が担当したため、私は主に東北と新潟の医学部 8 校の学会発表を聞いていた。 学会に初めての参加であったため自身の学修目標として学会の雰囲気を知ることが一番の目標としていた。実際に参加し、発表者の声や話し方、視線、スライドの見やすさに特に注意を払っていると感じた。最も学びになったことは質疑応答である。議長や審査員の先生方が疑問に思ったことやこれからの展望などについて質問されており、それに対し質問の意図を的確に理解し応える必要があった。それを学会発表という真剣で緊張もする場で行わなければならないということを知った。これに対応できるようになるためには練習を重ねることや、講義などで与えていただいた発表に対してより真剣に取り組む必要があると感じた。そのため、今後何かの形で発表をする際はより真剣に取り組みたいと思った。			

2025 年 6 月 9 日

東北整形災害外科学会 参加感想文

大学名	東北医科薬科大学	学年	4 年
名前 (イニシャル)	H.Y		
参加学会名	第 122 回東北整形災害外科学会		
期日	2025 年 6 月 6 日～6 月 7 日		
【感想】(400 字程度) まず初めに、この度東北整形災害外科学会にて貴重な経験をさせていただきましたこと感謝申し上げます。今回初めて学会で発表させていただく機会をいただきとても緊張しましたが、存分に楽しんで発表することができたと思っております。 学会に参加することになった経緯といたしましては、第3学年次に学校の講義として「課題研究」という基礎科目と臨床科目全ての科で各々先生の元で研究させて頂く講義があり、私は整形外科学講座を選択いたしました。選択した理由といたしましては、小さいころからスポーツをやっていたこともあり整形外科に興味があったためです。他大学の学生や先生方の研究内容もとても興味深い発表で沢山刺激を受けました。これを機に整形外科に関する様々なことについて、自分から積極的に学んでいきたいと思っております。 最後にご指導いただいた菅野先生をはじめとする諸先生方に感謝申し上げます。			

2025 年 6 月 9 日

東北整形災害外科学会 参加感想文

大学名	岩手医科大学	学年	4 年
名前 (イニシャル)	K.M		
参加学会名	第 122 回東北整形災害外科学会		
期日	2025 年 6 月 6 日～6 月 7 日		
【感想】(400 字程度) この度は、第 122 回東北整形災害外科学会に参加させていただき、誠にありがとうございました。人生初の学会参加で緊張しておりましたが、学術的な雰囲気と温かい交流の場であると感じ、貴重な経験となりました。 今回私は研究チームの一員として参加し、発表は仲間が担当いたしました。研究過程では、問題設定から仮説の立て方、データ解析に至るまで、論理的思考の組み立て方を体験できました。また、スライド構成や効果的な話し方について考える機会を得ました。 学会当日は、多くの発表を聞く中で、話すスピードや間の取り方、質疑応答での対応など、プレゼンテーション技術の重要性を実感いたしました。また、他大学の多様な研究アプローチを知ることができ、同世代の視点に刺激を受けました。 今回の経験を今後の研鑽に活かし、いつか私自身も発表できるよう精進してまいります。ご指導いただいた先生方、関係者の皆様に感謝申し上げます。			

2025 年 6 月 11 日

東北整形災害外科学会 参加感想文

大学名	岩手医科大学	学年	4 年
名前 (イニシャル)	H.O		
参加学会名	第 122 回東北整形災害外科学会		
期日	2025 年 6 月 11 日		
【感想】(400 字程度) 3 年生の時の研究室配属で整形外科学講座に配属となり、今回の発表題材である多発性骨髄腫を研究しました。初めて電子カルテを閲覧したため、必要な情報をどこから得ればいいのか苦労しましたが、仲間の協力や和田先生のアドバイスで研究を進めることができました。今回の学会はその成果を発表させていただく場で、私たちにとっては初めての学会でした。会場について実際の学会の様子や雰囲気を感じて、とても高揚しました。自分は質問対応のために登壇させていただきましたが、自分としては納得のいくものは発揮できませんでした。本番の雰囲気にのまれ、用意していたもの通りに伝えられなかったり、うまく整理して対応ができなかったりしました。このように個人的には反省点が多く見付き、仲間たちやご指導をいただいた先生に申し訳ないものになってしまいました。しかし、今回参加させていただかなければこのような雰囲気を体験することはできず、反省点を見つけることができなかったのも、今回の経験を糧により勉学に励みより良い発表ができ、より良い医者になれるように精進していきたいと思います。このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。将来、良い整形外科医になれるように精進します。			

2025 年 6 月 11 日

東北整形災害外科学会 参加感想文

大学名	岩手医科大学	学年	4 年
名前 (イニシャル)	R.T		
参加学会名	第 122 回東北整形災害外科学会		
期日	6 月 11 日		
【感想】(400 字程度) 私は今回参加した東北整形災害外科学会が自分にとって初の学会参加でありましたが多くの学びを得ることができ、学生のうちから貴重な体験をすることができたと感じています。今回の学会で発表した「多発性骨髄腫の診断において初診で対応した診療科別の患者特性の検討」について私たちは一年前の大学の研究室配属で研究を始めました。一年前の研究をし始めた時には臨床科目を学習し始めであったことやそれまでカルテを見たこともなかったため患者一人のデータを集めるのにもかなりの時間がかかっていました。そこから徐々に多発性骨髄腫の知識やカルテの見方も身に付き、何とか研究を終えることができました。研究を通じて医師になった時に必ず見るカルテにふれることや学生のうちから整形外科の先生方とかかわりを持つことができ、とても良い経験をすることができました。また、学会本番では他大学の研究内容のレベルの高さや発表者の堂々とした発表に驚き、自分も将来的には学会発表を壇上でする側も経験してみたいと感じました。			

2025 年 6 月 18 日

東北整形災害外科学会 参加感想文

大学名	東北大学	学年	6 年
名前 (イニシャル)	C・Y		
参加学会名	第 122 回東北整形災害外科学会		
期日	2025 年 6 月 6 日～6 月 7 日		
【感想】(400 字程度) 今回の学会では、学生セッションでの発表および講義の聴講という貴重な経験をさせていただきました。人生で初めての学会参加・発表であり、大変緊張しながらも高揚感をもって臨みました。学生セッションは大変多くの先生方が聴講なさっている中、他大学の学生の堂々とした発表に刺激を受け、自分も頑張りたいと気持ちが引き締まりました。自分の発表では、緊張しつつも自分らしく伝えることができた反面、課題も多く見つかったので次の機会ではより良い発表にしたいです。 また、発表後には骨軟部腫瘍に関する講義を聴講し、脂肪腫にも遺伝子変異が関与していることや、がんが出生前から存在することもあるという話が特に印象に残りました。がんとは何か、何をもって悪性となるのか、その奥深さを改めて実感いたしました。 準備の段階から当日まで、すべてが本当に貴重な経験であり、私にとって一生の宝物となりました。このような機会をいただき、心より感謝申し上げます。			

2025 年 6 月 18 日

東北整形災害外科学会 参加感想文

大学名	東北大学	学年	6 年
名前 (イニシャル)	T・W		
参加学会名	第 122 回東北整形災害外科学会		
期日	2025 年 6 月 6 日～6 月 7 日		
【感想】(400 字程度) このたび、東北震災の学生支援金を賜り、医学生として初めて学会発表の機会をいただきました。私は「大腿骨頭壊死症の圧潰進行予測における壊死体積割合の有用性」という演題で、3 次元的な MRI 解析による予後予測の有用性について報告しました。発表に向けては、統計解析やスライド作成など、多くの準備を通じて医学研究の基礎を実践的に学ぶことができました。当日は、多くの先生方からご質問やご助言を頂戴し、自身の理解を深めるとともに、今後の研究の課題も明確になりました。発表を終えた今、研究に向き合う姿勢や伝える力の大切さを実感しており、この経験を今後の学びや進路選択に活かしていきたいと思います。貴重なご支援に心より感謝申し上げます。			